


## 統計リテラシー No.4

## リスク比・オッズ比・NNT


## —— 治療効果の「大きさ」を数字で読む

 **今日のゴール：**「この薬は効く」「このリスク因子は危険だ」という主張が、数字としてどう表現されているかを読み解けるようになる。リスク比・オッズ比・NNTの違いと使い分けを理解し、医学論文の結果欄を自分の頭で解釈できる。

 この授業の問い

1. 「リスクが2倍」と「オッズが2倍」は同じ意味か？どう違うのか？
2. NNT（治療必要数）とは何か？NNTが小さいほど良い薬と言えるのはなぜか？
3. 「相対リスク減少30%」と「絶対リスク減少1%」はどちらが大きな効果か？なぜ混同されやすいのか？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

 前回（No.3）との接続

前回の2×2分割表をそのまま使う。ただし今回の横軸は「検査結果」ではなく「介入（治療・曝露）の有無」に変わる。

	アウトカム発生あり	アウトカム発生なし
介入群（治療あり）	a	b
対照群（治療なし）	c	d

この a・b・c・d の4マスからリスク比・オッズ比・NNTのすべてが計算できる。

## 採点者の視点

## 採点者はここを見ている —— リスク比・オッズ比・NNTの問題で合格答案はこういう「構造」をしている

## ① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

リスク比・オッズ比・NNTの問題では、各指標の適用条件の根拠の理解が答案の質を大きく左右します。

## ② リスク比・オッズ比・NNTの問題で採点者が見ているポイント

「コホート研究ではリスク比、症例対照研究ではオッズ比を使う理由」を示した答案が採点者評価を上げる

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

## ③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所